

在宅医療連携拠点事業の活動報告

平成25年2月3日

在宅医療連携拠点事業所
済生会松山訪問看護ステーション



松山市

- 人口:51万人
- 高齢化率:22.5%
- 介護保険 出現率:0.9%
- サービス充足度高い



かとうよしあきくん



西部地域

- 人口:111602人(平成24年1月調査)
- 高齢化率:23.0%
(離島等50%を超える地域もある)
- 介護保険 認定者数5308名
- サービス充足度高い

西宇和郡 伊方町
八幡浜市
大洲市
喜多郡 伊予市
西子市
戸島
日振島
鹿島
南宇和郡 愛南町
北宇和郡 松野

[事業計画1]

タスク	目的	内容	年間計画
多職種連携の課題に対する解決策の抽出	顔が見える関係の構築:現場の医療従事者との交流で情報が共有できる	多職種連携カンファレンス開催 他職種合同カンファレンス開催 アンケート調査	毎月1回他職種連携会議・ 6月アンケート調査実施 7月:分析 9月・1月医師会・行政合同会議
在宅医療従事者の負担軽減の支援	在宅医療連携をタイムリーに実施できる	タブレット型ipatのシステム化 (愛媛県医師会と共同)	6月:プログラマー・医師会担当者と打ち合わせ 7~8月:フォーマット作成 12月:試作品完成 1月:試用 2月:評価 3月:課題見直し
効果的な医療提供の為に他職種連携	地域の介護施設や居宅サービス事業所で働く看護師などの教育と顔が見える関係作り	定期的な研修会の開催	6月:緩和ケア 11月:糖尿病 7月:家族ケア 12月:緊急時対応 8月:認知症ケア 1月:地域フォーラム 9月:排泄ケア 2月:栄養管理 10月:リハビリテーション 3月:市民フォーラム
効果的な医療提供の為に他職種連携	地域の社会資源を知る	マップ作り (3事業所合同)	9月:マップ作成 10月:地域包括支援センター・病院医療連携室に配布
効果的な医療連携の為に他職種連携	医療ニーズの高い療養者の様々な支援が包括的かつ継続的に提供できる	地域包括センター等及び医療機関の地域連携室への相談支援	地域包括支援センター等への相談支援 病院医療連携室への相談支援

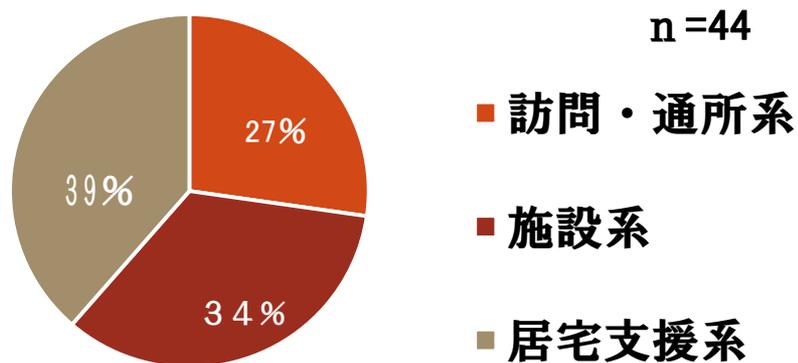
[事業計画2]

タスク	目的	内容	年間計画
在宅医療に関する地域住民への普及・啓発	医療ニーズの高い療養者が在宅療養ができることを地域住民に広報する	地域住民への普及・啓発	毎月:まちの保健室開設 11月:パンフレット作り・配布 1月:地域フォーラム 3月:市民フォーラム
在宅医療に従事する人材育成	都道府県のリーダーとして在宅医療に関わることができる	都道府県リーダー研修の受講	10月:リーダー研修
その他	離島に住む住民の健康管理	離島へ訪問し、健康支援活動を行う	夢のみずうみ村施設見学 5月～11月:毎月第1土曜日離島支援
その他	発達障害児及びその家族の支援の場を作る	プレイルームの開設	8月～毎月第1.3土曜日プレイルーム開設
その他	がん患者が持っている不安や苦痛に対する支援	緩和ケアサロンの開設	8月:緩和ケアサロンほっとひと息施設見学 10月:名古屋大学キャンパスサロン見学 11月～:火曜日、金曜日 緩和ケアサロン開催
その他	在宅療養者を支える家族への支援	宿泊サービスの実施	1泊2日(木・金)の宿泊サービスの実施

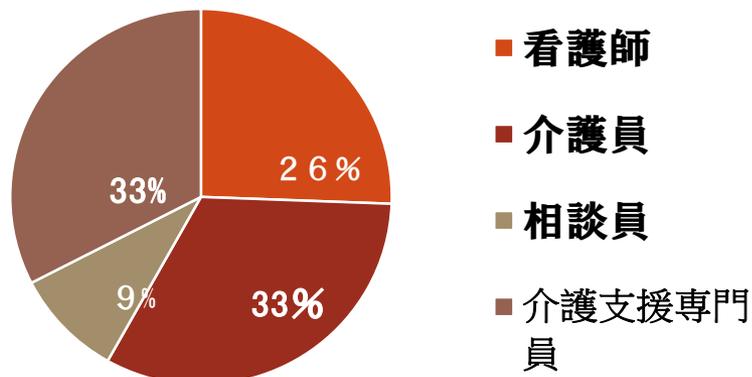
タスク1:多職種連携の課題に対する解決策の抽出

多職種連携地域ケア会議・研修会においアンケート実施

アンケート対象者所属別



アンケート対象者職種別



- 病院退院直前にならないと連絡がなく、調整が困難である
- 医師と直接面談ができにくい
- 訪問看護師は事務所に不在のことが多く、連絡できにくい
- 施設の受け入れ状況がはっきりせず、ショートや入所の相談に時間がかかる
- ヘルパーと連携が取りにくいと思うことがある
- 入院や治療についてケアマネに同意や身元引受を依頼してくるのは困る
- 退院時に介護保険の申請をしないで、帰宅後困るケースがある

課題解決のためには・・・

日頃から地域の中で気軽に声かけの出来る環境が必要であると考える



多職種連携会議の風景



タスク2:在宅医療に関する地域住民への普及啓発

- **地域の課題**：通院困難時に往診や訪問看護の制度を知らない人が多い
- 訪問看護利用者175名のアンケート調査（H24年9月実施）では、利用するまでこの制度を知らなかったと答えた人は**90%**であった

地域住民フォーラムin伊台

- 日時：H25年1月27日（日）13:00～16:00
- 場所：伊台公民館
- テーマ：いつまでも健やかにここで暮らしたい
- 内容：基調講演「健やかに老いるために」
～あなたの脳は大丈夫？～



講師：角南典生先生

作業療法士

講義1 元気な体を作ろう

～家でできるリハビリテーション～

講義2 介護保険の話

講義3 もしもの時の訪問看護

地域包括支援センター桑原・道後

訪問看護認定看護師

【参加者】

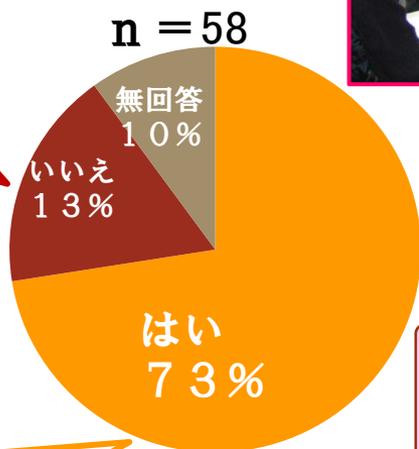
- 68名（男性12名 女性56名）
- 参加者のアンケート結果

訪問看護を知っている人：15名

家族を家で介護したいと思いませんか？

「いいえ」と答えた人

- 見てくれる人がいない
- 専門家に委ねたほうがいい
- 老々介護では難しい



「はい」と答えた人

- 介護サービスや施設を上手く取り入れ
家族のストレスをためないようにしたい
- 片方が健在な間はそうしたい
- 体力が続く限り、そうしたい



フォーラムの実際

タスク3:在宅医療に従事する人材育成1

〈H24年5月アンケート結果〉

「勉強会や多職種と連携する機会を持ちたい」

●活動

在宅医療に関する勉強会と地域で働く多職種による意見交換会

●実施日

毎月第3金曜日
18時～20時

●結果

困難事例の関わりについての相談を受けることができている

●今後の計画

認定看護師や医師を講師として事業を継続する

回数	日程	テーマ	講師	参加人数
第1回	6月27日	看取りのケア	認定看護師	81名
第2回	7月27日	家族ケア	大学講師	91名
第3回	8月31日	認知症のケア	医師	70名
第4回	9月21日	排泄ケア	大学講師	52名
第5回	10月19日	リハビリテーション	作業療法士	70名
第6回	11月16日	糖尿病について	認定看護師	67名
第7回	12月21日	緊急時の対応	医師	60名
第8回	1月27日	地域住民フォーラム	医師	未定
第9回	2月15日	栄養管理	認定看護師	未定
第8回	3月16日	市民フォーラム	医師	未定



【緩和ケアサロン】

- **課題**：がん患者が訪問看護を依頼するのは終末期の場合が多い。併設病院で外来科学療法を受けている患者は、副作用対策・意思決定等の支援が乏しい。家族支援・医療関係者へのサポートも重要である。

- **活動**：毎週火曜日に**緩和ケアサロン**を開催

- **結果**：参加利用者 がん患者 3名 家族 1名

〈利用後のアンケートにて〉

- *話を聞いてもらって、気持ちが楽になった
- *リンパ浮腫への不安が軽くなった
- *リンパマッサージが自分で取り組めた
- *週1回定期的に通って、身体が軽くなった

〈家族ケア〉

- *グリーンケアでゆっくり関わられた

- **今後の課題**：がん患者への早期介入は必要であるが病院の中で開催するほうが利用者が集まりやすいと思われる。

緩和ケアサロン 開催のお知らせ

がん患者さんやご家族の方に癒しの時間をもってもらい
自分らしく治療や生活ができるようお手伝いします

場所：済生会松山訪問看護ステーション堀江(松山市堀江甲 1640-9)

日時：第2,4週金曜日 13時～16時

費用：無料

定員：予約制(電話・FAX でお願ひします。折り返し連絡します。)

- *がん相談・症状緩和に関する相談
- *抗がん剤治療の副作用に関する相談
- *疲れをとるリラクゼーション
- *浮腫みをとるリンパマッサージ
- *介護相談・福祉制度の紹介



在宅医療連携拠点事業所
済生会松山訪問看護ステーション
TEL:089-951-1335 FAX:089-951-1793

三浦(緩和ケア認定看護師)・谷川(事務)



相談



リラクゼーション



リンパ浮腫の計測

【発達障がい児のプレイルーム ぶらんこ】

- **課題**：障がいを持つ子どもの母親より子育ての悩みとして
 - ・ 怪我や感染のリスクが高い
 - ・ 他人に迷惑をかける、人目が気になる
 - ・ 兄弟がいると目が届かない



「安心して子供を遊ばせる場所がない」

「同じ境遇の家族が集える場所がほしい」

- **活動**：毎月第1, 3土曜 9時～12時
「プレイルームぶらんこ」としてデイサービス施設を開放
遊具やおもちゃを提供し、作業療法士2名と看護師・
保育士等の専門職が行う発達障がい児及び家族支援
- **結果**：遊びを通して、発達支援のリハビリが行えた
同じ境遇の複数の家族が交流できた
参加者同士で気軽に相談ができるようになった
母親からイベントの提案があり参加家族が増えた
専門職を志す学生ボランティアも参加し交流が進んだ
- **今後の課題**：継続した運営をするためには、現行制度では
サービスがない為、自主運営に頼らざるを得ない



【離島における健康支援活動】

- **課題**： 高齢化率が50%を超えている。
島では病院も施設もなく、介護保険サービスが受けれない。
- **活動**： **年8回（4月～11月）毎月第1土曜日実施**
健康チェック・健康に関するミニレクチャー
健康体操・レクリエーション・個別指導
- **結果**： 健康に対する意識が高まり、島民も真剣に取り組んでいた。
要介護状態になると、この島では生活できないことを感じている。
- **今後の課題**： 今後も継続した関わりが必要
 1. 島民の健康への関心を深め、疾病への予防的介入が出来るような教育の場とする
 2. 自分の将来はどうするかを早期から話し合い、助け合えるコミュニティを強化する
 3. 行政と共に医療・福祉との連携を密にしながら共にサポート体制を作る



釣島全景



健康相談



移送手段



健康体操

【宿泊サービス】

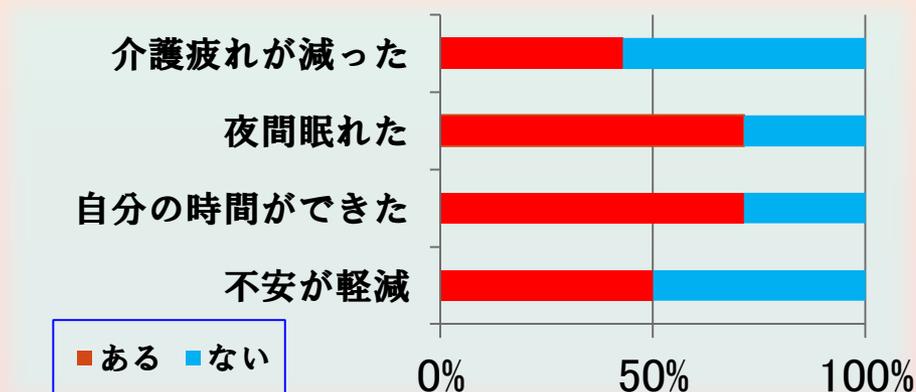
- **課題**：重度療養者の宿泊施設がない
- **活動**：療養通所介護利用者のうち、希望者に週1回、1泊2日の宿泊サービスを行った



- **結果**：サービス利用後、家族へのアンケート調査（H24年12月）

n = 7

- **今後の課題**：
泊りの出来る職員の確保
期間の延長
緊急時の対応



【まとめ】

- ・ 住民フォーラムでは公民館単位の小集団での交流会が活発な意見交換ができ有効であった
- ・ 多職種合同研修会や地域ケア会議では、なじみの地域の多職種が定期的に集まり、共に学ぶことで関係が深まり、連携がとりやすくなった
- ・ 離島支援や緩和ケアサロン、プレイルーム、宿泊サービスは、なじみの関係で機会の提供をしたことが、参加者の安心感に繋がり、満足度が高かった



地域住民の健康を守るためには、住民自身はもとより、支援する側の多職種が顔の見える関係であることが重要である。